

1 青森県の推計人口（平成16年10月1日現在）…………… 1

県人口	1,450,947人	（対前月 514人減少、対前年同月 9,103人減少）
自然動態	120人減少	（出生者数 986人、死亡者数 1,106人）
社会動態	394人減少	（転入者数 1,618人、転出者数 2,012人）

2 本県の経済動向

（1）経済概況

本県経済の動向は、需要や雇用情勢が依然として厳しい中で、鉱工業生産の一部に堅調な動きがみられるものの、改善に向けて足踏み状態にある。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成16年8月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が88.6で、前月比5.6%の低下となり、2ヶ月連続で前月を下回った。また、原指数は84.4で、前年同月比4.8%の上昇となり、7ヶ月連続で前年同月を上回った。
{ 化学工業を除いた指数では、季節調整済指数が93.0で、前月比1.9%の低下（3ヶ月連続）、原指数が87.8で、前年同月比11.3%の上昇（9ヶ月連続）となった。} … 2
- (2-2) 雇用情勢 平成16年8月の現金給与総額は249,780円で前年同月比0.7%増となった。このうち、定期給与は233,402円で2.8%増となった。総実労働時間は、156.7時間で前年同月比4.7%増となり、所定外労働時間では8.4時間で前年同月比19.9%増となった。
 平成16年9月の有効求人倍率は0.33倍で、前月を0.01ポイント上回った。 … 3
- (2-3) 物価 平成16年9月の青森県消費者物価指数は、99.2となり、前月と比べ0.2%の下落、前年同月と比べ0.1%の下落となった。 … 4
- (2-4) 個人消費 平成16年8月の大型小売店販売額は、全店舗ベースで前年同月比4.9%減の159億9千万円となり、既存店ベースでも前年同月比5.5%減となった。
 平成16年9月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,483台で、前年同月比0.4%の減となり、2ヶ月ぶりに前年を下回った。 … 5
- (2-5) 住宅建設 平成16年9月の新設住宅着工戸数は828戸で、貸家の増加により前年同月比20.2%増となり、5ヶ月ぶりに前年を上回った。 … 6
- (2-6) 公共投資 平成16年9月の公共工事請負金額は、前年同月比9.6%増となった。 … 6

（3）景気動向指数（平成16年8月分）…………… 7

先行指数	77.8%	（2か月連続で50%を上回った）
一致指数	12.5%	（前月50%の後50%を下回った）
遅行指数	57.1%	（3か月連続で50%を上回った）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成16年10月期）…………… 8

3カ月前と比べた景気の現状判断DI	… 37.5	（前期比7.4ポイント減、14期連続50を下回る）
3カ月後の景気の先行き判断DI	… 44.3	（前期比5.2ポイント減、2期連続50を下回る）

1 青森県の推計人口（平成16年10月1日現在）

【概況】

平成16年10月1日現在の本県推計人口は、1,450,947人で、前月に比べ514人の減少、前年同月に比べると9,103人の減少となった。

○自然動態

出生者数が986人、死亡者数が1,106人で、120人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,618人、転出者数が2,012人で、394人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	対前月増減率		増減数	自然増減数	社会増減数		県外からの転入者数	県外への転出者数		
		男	女			出生者数	死亡者数				
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-		
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-		
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-		
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-		
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-		
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-		
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-		
15.10.1	1,460,050	693,437	766,613	-0.023%	-339	-99	1,040	1,139	-240	1,842	2,082
15.11.1	1,460,172	693,492	766,680	0.008%	122	-53	1,037	1,090	175	2,165	1,990
15.12.1	1,459,893	693,300	766,593	-0.019%	-279	-205	870	1,075	-74	1,368	1,442
16.1.1	1,459,478	693,077	766,401	-0.028%	-415	-248	896	1,144	-167	1,364	1,531
16.2.1	1,458,897	692,740	766,157	-0.040%	-581	-415	998	1,413	-166	1,334	1,500
16.3.1	1,458,159	692,330	765,829	-0.051%	-738	-296	912	1,208	-442	1,252	1,694
16.4.1	1,452,455	688,993	763,462	-0.391%	-5,704	-243	1,036	1,279	-5,461	4,532	9,993
16.5.1	1,453,207	689,495	763,712	0.052%	752	-160	999	1,159	912	4,749	3,837
16.6.1	1,452,844	689,216	763,628	-0.025%	-363	-242	942	1,184	-121	1,555	1,676
16.7.1	1,452,449	688,905	763,544	-0.027%	-395	-79	985	1,064	-316	1,413	1,729
16.8.1	1,451,562	688,424	763,138	-0.061%	-887	-134	993	1,127	-753	1,921	2,674
16.9.1	1,451,461	688,505	762,956	-0.007%	-101	-249	1,008	1,257	148	2,449	2,301
16.10.1	1,450,947	688,209	762,738	-0.035%	-514	-120	986	1,106	-394	1,618	2,012

9月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月		平7.9	8.9	9.9	10.9	11.9	12.9	13.9	14.9	15.9	16.9
自然動態	出生者数	1,176	1,210	1,114	1,197	1,107	1,127	1,030	1,046	1,040	986
	死亡者数	877	1,016	922	1,025	1,002	894	941	1,060	1,139	1,106
	自然増減数	299	194	192	172	105	233	89	-14	-99	-120
社会動態	県外からの転入者数	1,959	2,048	2,053	1,931	1,757	1,867	1,643	1,758	1,842	1,618
	県外への転出者数	1,836	1,763	1,963	1,685	1,878	1,708	1,758	1,935	2,082	2,012
	社会増減数	123	285	90	246	-121	159	-115	-177	-240	-394

※1 平成2、7、12年は国勢調査による数値。

※2 平成15年10月1日から平成16年10月1日までの人口は平成12年国勢調査人口(確定値)を基礎に推計している。

※3 増減数は、平成2、7、12年が前回、その他が前月に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数(出生者数－死亡者数)＋社会増減数(県外からの転入者数－県外への転出者数)

※5 これまで社会動態の算定には、県間移動数に加え県内市町村間移動数も含めていたが、県内市町村間移動者数を含めないこととし修正を行なったことから、過去の公表数値と異なっている。

※6 県の推計人口には、県内市町村間の移動者数を含んでいない為、各市町村の推計人口の総計とは一致しない。

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

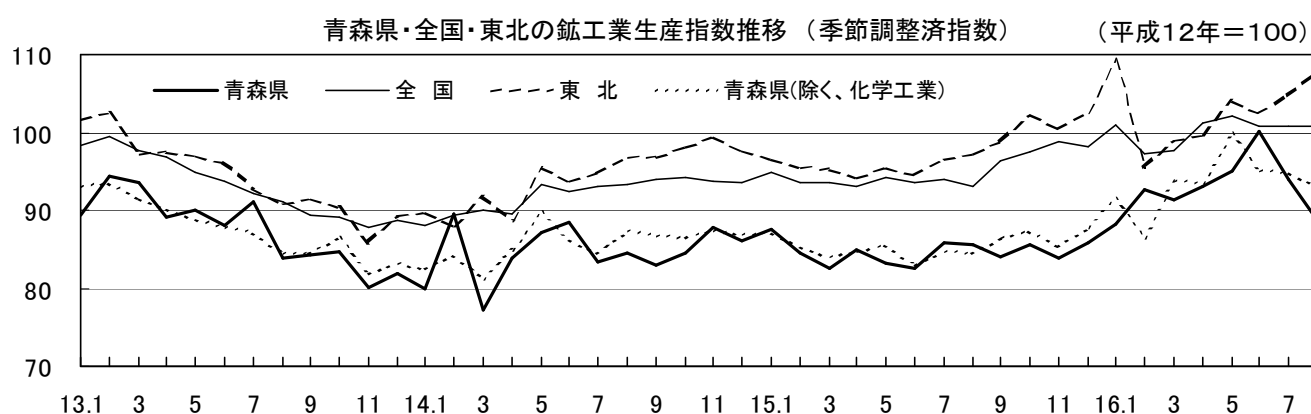
(2-1) 製造業の生産

平成16年8月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が88.6で、前月比5.6%の低下となり、2ヶ月連続で前月を下回った。また、原指数は84.4で、前年同月比4.8%の上昇となり、7ヶ月連続で前年同月を上回った。

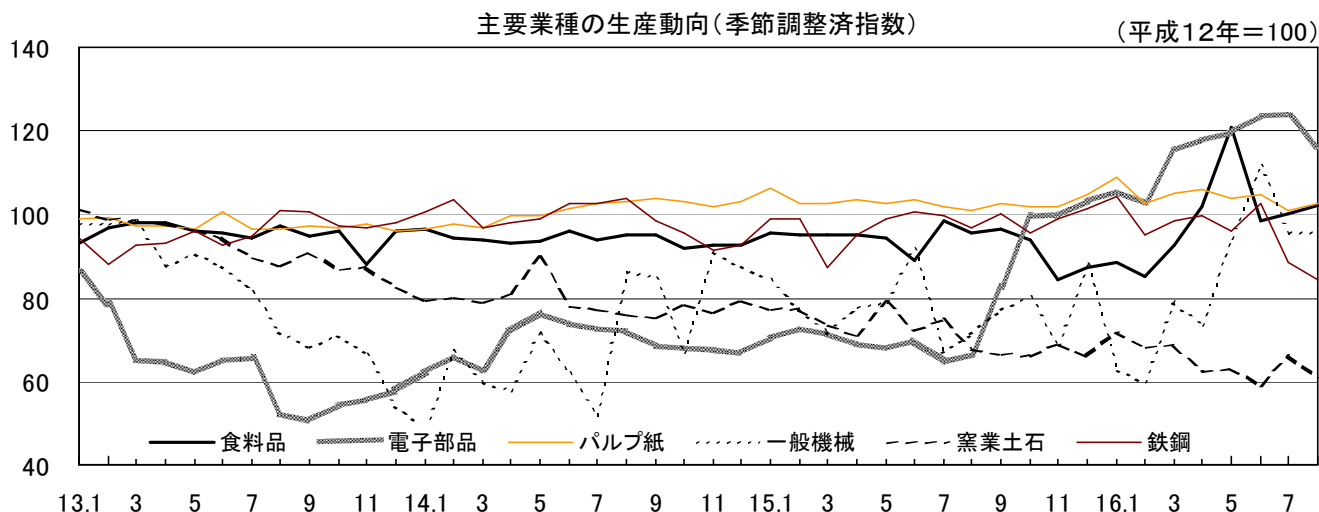
季節調整済指数で前月からの動きをみると、食料品工業、プラスチック製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業などが上昇に寄与した一方、化学工業、金属製品工業、電子部品・デバイス工業などが低下し、鉱工業全体では5.6%の低下となった。

(化学工業を除いた指数について)

季節調整済指数が93.0で、前月比1.9%の低下(3ヶ月連続)、原指数が87.8で、前年同月比11.3%の上昇(9ヶ月連続)となった。



プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
(鉱工業)				-5.6	100.0
食料品工業	2.1	12.1	化学工業	-81.4	-58.7
プラスチック製品工業	9.2	3.6	金属製品工業	-24.4	-20.9
パルプ・紙・紙加工品工業	1.6	3.0	電子部品・デバイス工業	-5.8	-18.9
家具工業	42.2	2.6	窯業・土石製品工業	-8.0	-6.8
輸送機械工業	10.1	2.5	鉄鋼業	-5.1	-5.3



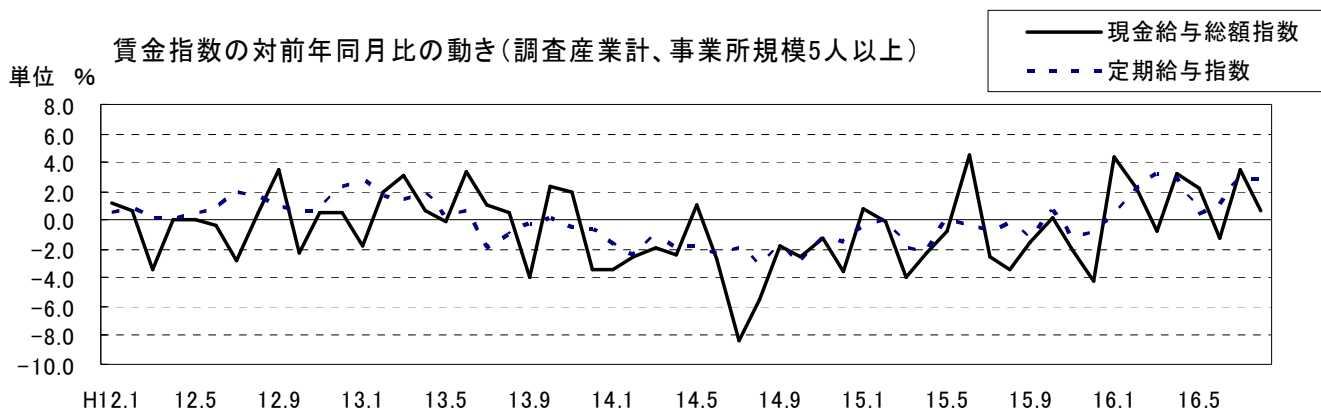
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成16年8月の現金給与総額は249,780円で現金給与総額指数(平成12年=100)では87.1となり、前年同月比0.7%増となった。このうち、定期給与は233,402円で定期給与指数では98.8となり、前年同月比2.8%増となった。実額で比較した定期給与の全国対比は86.3となった。

所定外労働時間は8.4時間で、所定外労働時間指数では97.7となり、前年同月比19.9%増となった。

平成16年9月の有効求人倍率は0.33倍(季節調整済値)で、前月を0.01ポイント上回った。



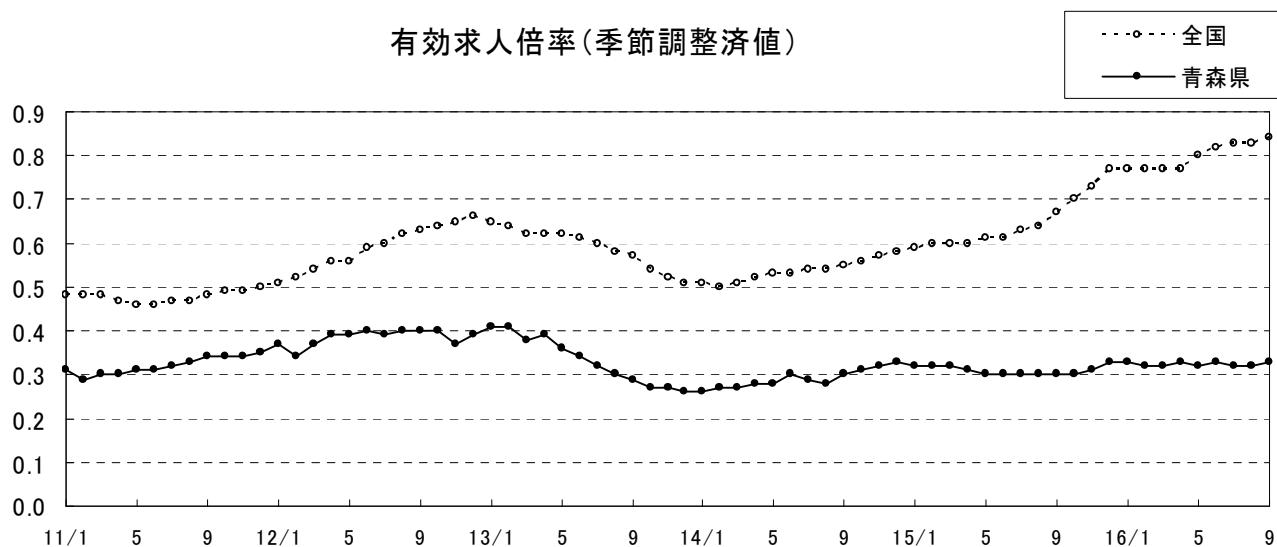
賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H12=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	249,780 円	290,053 円	87.1	82.1	0.7 %	0.2 %
定期給与	233,402 円	270,462 円	98.8	95.8	2.8 %	-0.4 %
特別給与	16,378 円	19,591 円	—	—	—	—
総実労働時間	156.7 時間	148.0 時間	98.8	96.0	4.7 %	1.7 %
所定内労働時間	148.3 時間	138.2 時間	98.8	95.8	3.8 %	1.8 %
所定外労働時間	8.4 時間	9.8 時間	97.7	99.0	19.9 %	2.1 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



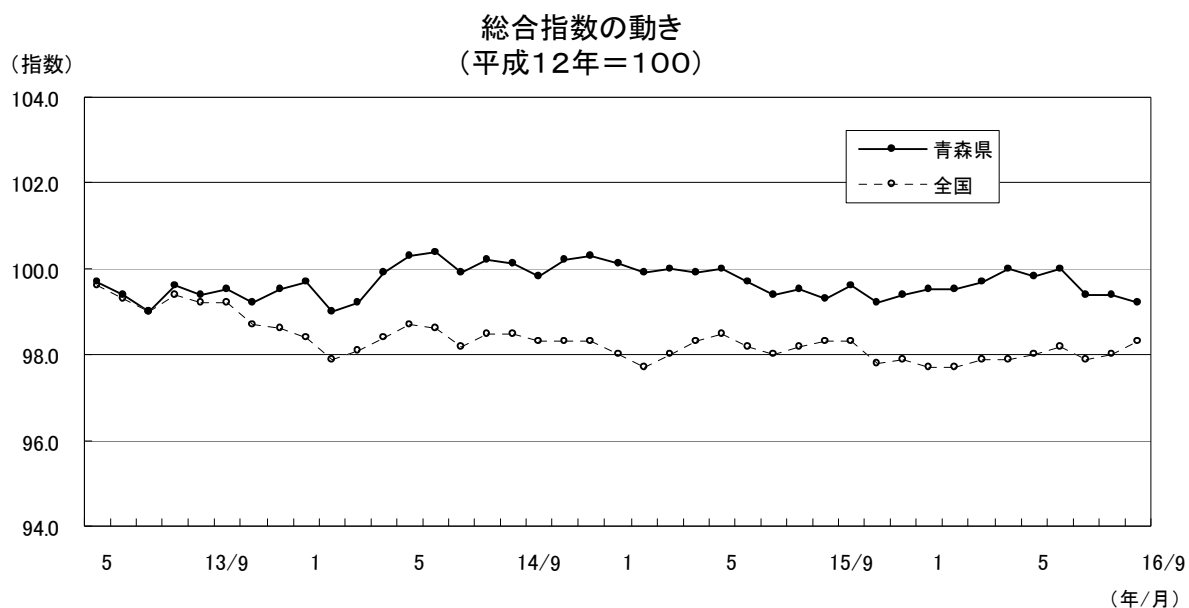
資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成16年9月の青森県消費者物価指数は、平成12年を100とした総合指数で99.2となり、前月と比べ0.2%の下落、前年同月と比べ0.1%の下落となった。

前月比が0.2%の下落となった要因としては、食料（生鮮魚介、生鮮果物）、教養娯楽（外国パック旅行、宿泊料）などが下落したことが挙げられる。

前年同月比が0.1%の下落となった要因としては、家具・家事用品、被服及び履き物などが下落したことが挙げられる。



10大費目別指数の動き

(平成12年=100)

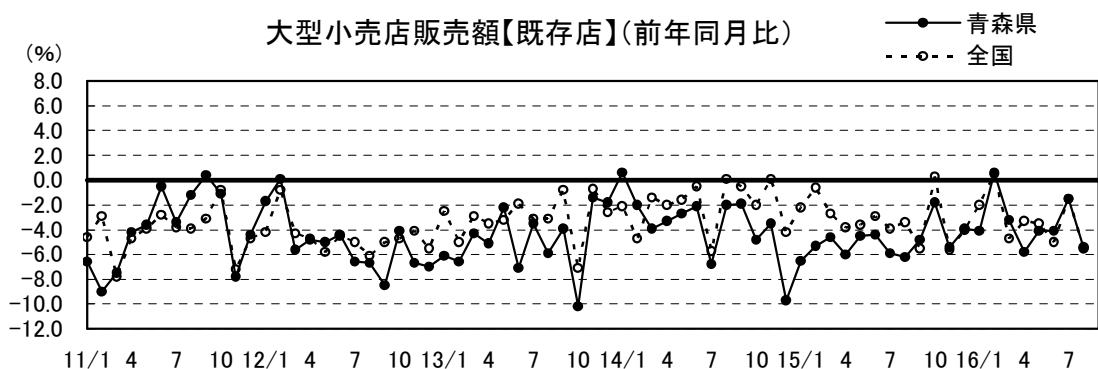
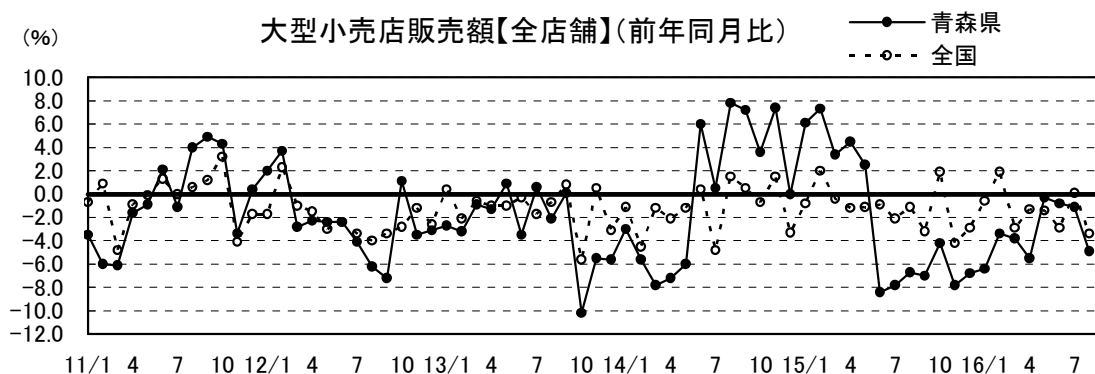
	総合	総合 (持ち家の 帰属家賃を除く)		食料	生鮮 食品	住居	光熱・ 水道	家具 ・家事 用品	被服 及び 履き物	保健 医療	交通・ 通信	教育	教養 娯楽	諸雑費
		総合 (生鮮 食品を 除く)	総合 (生鮮 食品を 除く)											
当月指数	99.2	98.1	99.7	99.0	91.5	105.0	101.5	89.0	92.3	105.4	98.0	106.2	90.5	102.5
前月比	▲ 0.2	▲ 0.2	0.0	▲ 0.2	▲ 2.8	0.0	1.5	0.0	▲ 1.0	▲ 0.9	0.3	▲ 0.3	▲ 2.0	▲ 0.1
前年同月比	▲ 0.1	0.0	0.0	0.1	▲ 1.4	0.2	1.6	▲ 3.7	▲ 3.8	▲ 2.2	1.2	5.3	▲ 1.4	▲ 1.0

資料：県統計分析課「青森県消費者物価指数月報」(速報)

(2-4) 個人消費

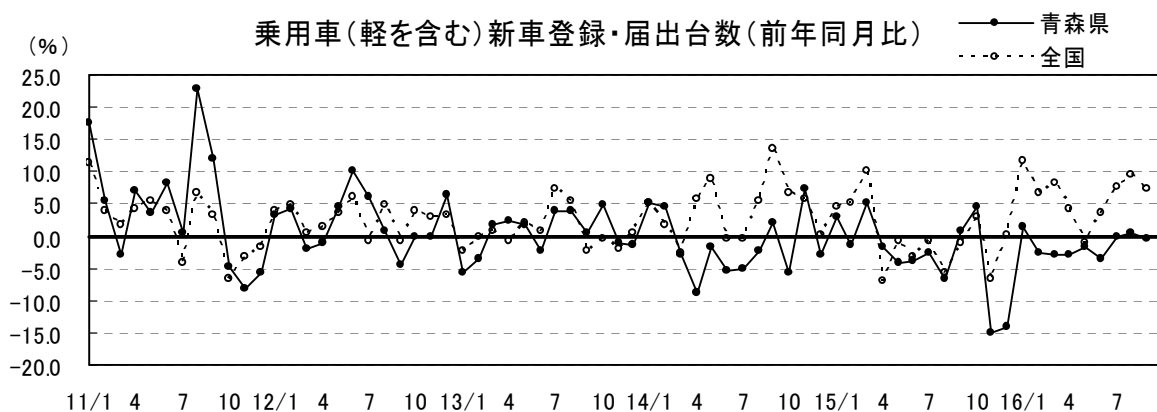
平成16年8月の大型小売店販売額は、全店舗ベースで前年同月比4.9%減の159億9千万円で15ヶ月連続のマイナスとなり、既存店ベースでも前年同月比5.5%減と6ヶ月連続でマイナスとなった。内訳をみると、百貨店、スーパーとも、飲食料品、衣料品等がマイナスになったことにより前年を下回った。

平成16年9月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,483台で、小型車、軽乗用車が増加したものの、普通車が減少したことにより、前年同月比0.4%減となり2ヶ月ぶりに前年を下回った。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

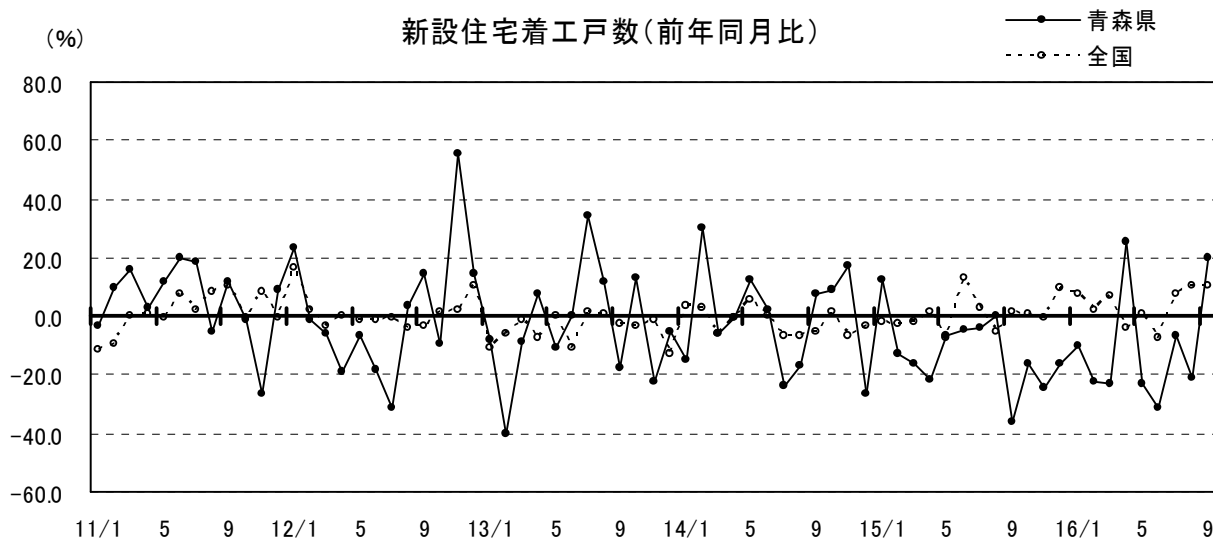


資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」

日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

平成16年9月の新設住宅着工戸数は828戸で、貸家の増加により前年同月比20.2%増となり、5ヶ月ぶりに前年を上回った。

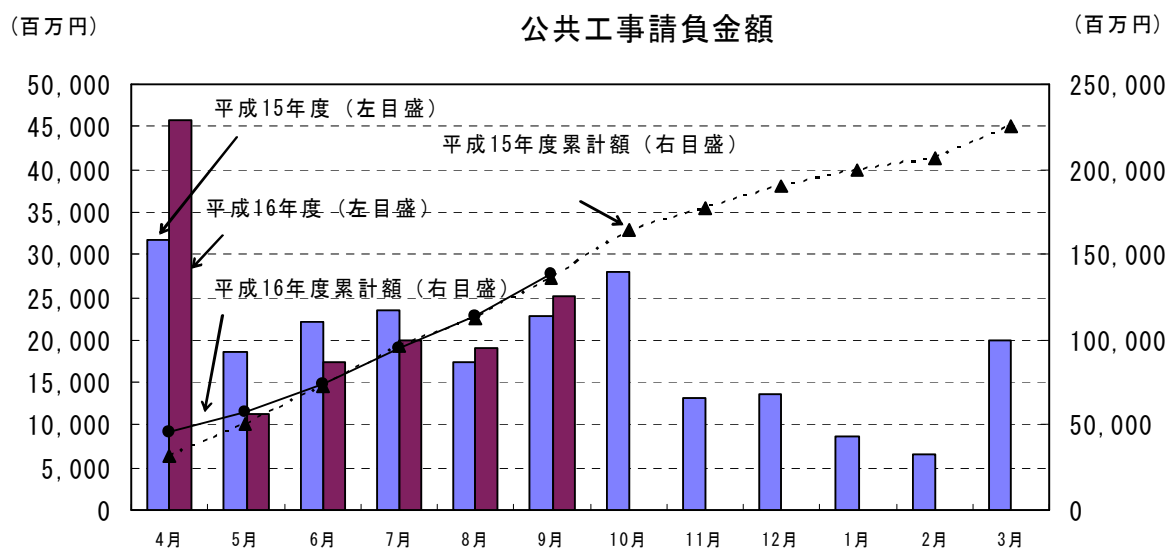


資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-6) 公共投資

平成16年9月の公共工事請負金額は、単月では250億7千万円で、前年同月比9.6%増となった。発注主体別では、県は同12.2%減となったものの、国は同16.8%増、市町村は同23.0%増となった。

また、4月からの累計は、1,387億円で、前年比1.9%増となった。



資料：東日本建設業保証(株)青森支店「青森県内の公共工事の動向」

(3) 青森県景気動向指数

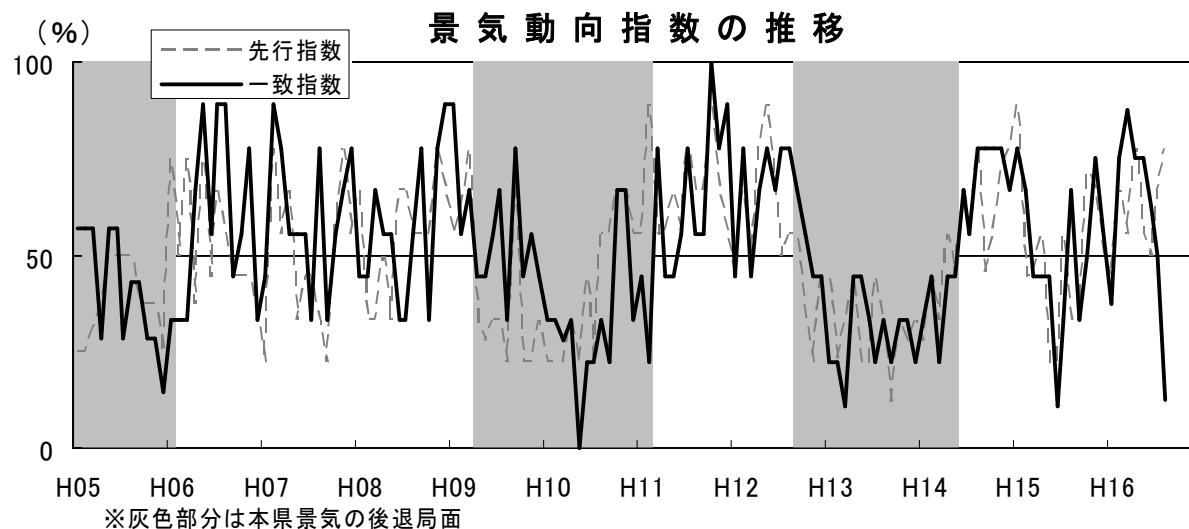
平成16年8月の青森県景気動向指数は、先行指数77.8%、一致指数12.5%、遅行指数57.1%となった。

先行指数は、2か月連続で50%を上回った。

一致指数は、前月50%の後50%を下回った。

遅行指数は、3か月連続で50%を上回った。

8月の一致指数は、生産関連の指標等がマイナスとなったことから、50%を下回った。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中7指標がプラス）			
所定外労働時間指数（全産業）	1 2か月連続	生産財生産指数	2 2か月連続
新規求人数（常用）	3 3か月連続	建築着工床面積（鉱+商+サ）	2 2か月ぶり
新設住宅着工戸数	2 2か月連続		
企業倒産負債額	2 2か月連続		
中小企業景況D I	2 2か月連続		
入職率（製造業）	2 2か月ぶり		
乗用車新車登録届出台数	3 3か月ぶり		
一致系列（8指標中7指標がマイナス） ※1			
有効求人数（常用）	7 7か月連続	雇用保険基本手当初回受給者数	4 4か月連続
		大型小売店販売額（実質）	3 3か月連続
		大口電力使用量	2 2か月連続
		海上出入貨物量（八戸港）	2 2か月連続
		日銀券月中発行高	2 2か月ぶり
		鉱工業生産指数	1 1 1か月ぶり
		電気機械生産指数	1 3 3か月ぶり
遅行系列（7指標中4指標がプラス）			
信用保証申込金額	3 3か月連続	輸入通関実績（八戸港）	2 2か月連続
1人平均月間現金給与総額	2 2か月連続	勤労者世帯家計消費支出（実質）	6 6か月ぶり
単位労働コスト（製造業）	2 2か月連続	消費者物価指数（帰属家賃除く総合）	8 8か月ぶり
常用雇用指数（製造業）	1 4 4か月ぶり		

※1 一致系列の東北自動車道IC利用台数については、青森中央IC、青森東ICの開通による影響が大きいため、当面の間、判定に用いないこととする。

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

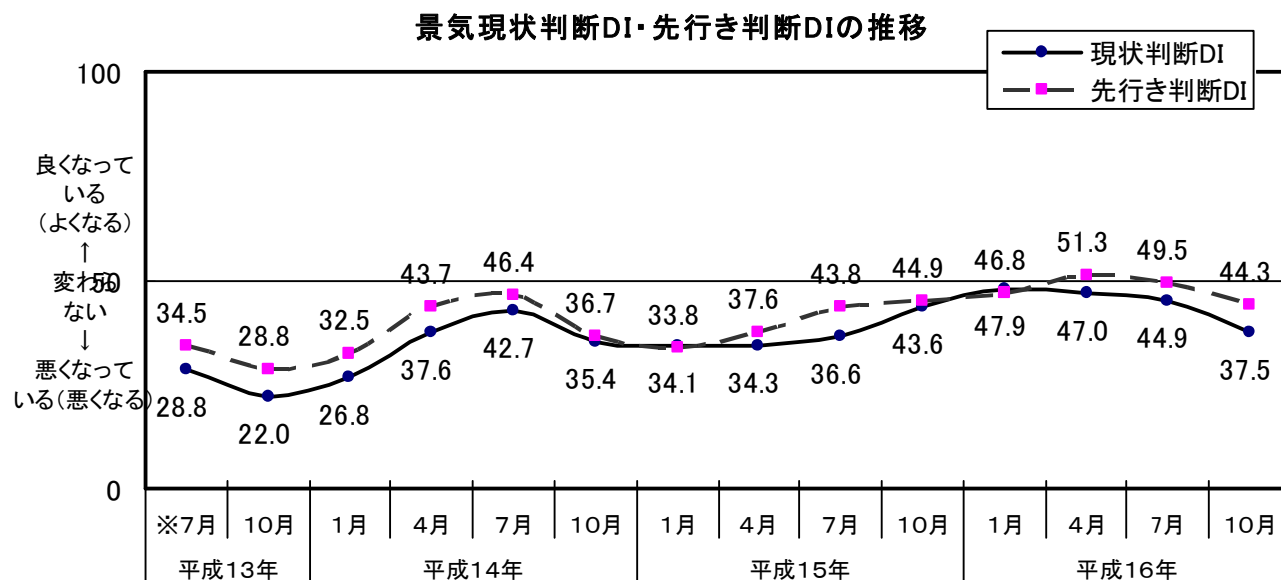
(4) 青森県景気ウォッチャー調査

平成16年10月期の景気ウォッチャー調査は、10月1日～10月21日を調査期間とし、回答率96%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは37.5で、前期調査より7.4ポイント下回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは44.3で、前期調査より5.2ポイント下回った。

10月期は、現状判断DIは3期連続ポイントが減少し、景気の先行き判断DIは2期連続ポイントが減少し、いずれも横ばいを示す50を下回った。



※平成13年7月は試行調査

● 3か月前と比べた景気の現状判断

動

前期調査と比べると、「変わらない」が15.4ポイント減少し、「やや悪くなっている」が20.2ポイント増加していることにより、全体では7.4ポイント減の37.5となり、引き続き横ばいを示す50を下回った。判断理由をみると、県内でも一部のIT関連企業では好調に推移しているというものの、多くの中小企業では低い位置での横ばい傾向であることが挙げられている。

向

前期調査に比べて、全ての地区でポイントが減少しており、特に津軽地区と県南地区では10～11ポイント減少した。

● 3か月後の景気の先行き判断

動

前期調査と比べると、「やや良くなる」が9.9ポイント減少し、「やや悪くなる」が17ポイント増加したことにより、全体では5.2ポイント減の44.3となり、引き続き横ばいを示す50を下回った。判断理由をみると、中央の大手企業の業績は回復傾向にあり、これからの年末商戦にかけての期待感はあるものの、原油価格の上昇により原材料価格が値上がり傾向にあり企業の経費節減の方向は続いていくことが挙げられている。

向

前期調査に比べて、県南地区を除いて3.5～12.2ポイント減少しており、県南地区では50となっている。特に津軽地区では、台風によるりんご被害で、今後の個人消費の伸び悩みを心配する声が多く挙げられている。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- 当社の場合、3ヶ月前よりは好転しているが、今後の動向については、見通しがつかない。業種にもよるが、業務体制見直しによる人員削減先は依然多い。(建設=東青)
- 特に悪化している印象はあまり感じられないが、売上げも横ばい、減少傾向にあり、景気回復などほど遠い感じである。(旅行代理店=県南)
- 猛暑で季節的商品が好調であったが、一時的なものであり、依然として消費低迷の状況は変わらない。(卸売業=県南)
- 厳しい雇用情勢、企業倒産の状況から低位横ばいの状況が続いているとみられる。(経営コンサルタント=東青)
- 地元企業、商店などの営業広告は依然として低迷。求人広告に若干の動きがでてきたことに期待したい。(求人広告=津軽)
- △暖房機商戦がスタートしたが、前年比90%の推移です。農家も収入面では確定していない分、影響している。(家電量販店=津軽)
- △市内の土木会社が破産したり、近所の店が閉店したりして、景気が上向きとは思えない。(スーパー=下北)
- △最近の決算において、売上高の減少する関係先が多くなってきた。(経営コンサルタント=津軽)
- ×東京でいう最低という時期が、時間差で今来ているのではないか。(レストラン=東青)

● 3ヵ月後の景気の先行き判断理由

- 店舗等の新築、改装工事している箇所が多くなってきているような気がする。内需拡大につながって欲しい。(パチンコ=県南)
- 長期的には極めて穏やかだが、回復傾向にある。しかし、限られた業種、分野に偏っている。何よりも雇用が回復しないと心理的な圧迫感が残り、個人消費に繋がらない。(百貨店=東青)
- 個人を含め、企業、団体の経費節減の方向は、続いていくものと思う。(都市型ホテル=東青)
- りんごの影響が今現在はでていないが、今後影響がでてくると予測される。(百貨店=津軽)
- 原油価格の高騰があり、今後どのように推移するか不安であり原材料等の値上げが予想されるため。(卸売業=県南)
- △弘前地区はりんご農家が多く、先頃の台風によるりんごの落下は大打撃を受けています。この影響は年末を控え、景気に水を差すことになると思います。(人材派遣=津軽)
- △原油高の影響で、ますます買い控えの傾向になるのではないのでしょうか。灯油高、ガソリン高で、お金回りは悪くなるのではないのでしょうか。(一般小売店=下北)
- ×来客数、売上げが下がっているし、見込みがない。(コンビニ=下北)

記号の意味◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている
資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」